

## 【断水から学んだこと】

沖縄県 港川中学校

二年

仲松 なかまつ  
蒼登 あおと

皆さんは、水の大切さをしっかりと考えたことがありますか。水は、私達にとつてとても身近なもので、蛇口をひねればすぐ出てきます。水を飲んだり、手を洗ったり、料理の時に使ったり、とにかく色々な場面で水を使います。「水がないと人間は生きていけない」と言っても過言ではありません。それほど、水は大切な役割を果たしている資源なのです。

しかし、昨年の九月、非常に強い台風二十四号が沖縄を襲い、その影響で私の家は停電してしまいました。その後、蛇口をひねっても水が全く出なくなり、断水までしてしまつたのです。

沖縄は毎年台風が来る地域なので、正直台風には慣れていて、いつものようにベランダのものを片付たり、食料を少し多めに備えるなどの対策はかしていませんでした。しかし、今回は違っていました。台風によって初めて停電を経験することになり、水が出ないという事態まで起こってしまったのです。

幸い、バスタブに水を少しだけ溜めてはいましたが全然足りず、トイレも3回に一回のペースで流したり、手も少しの水で洗つたりと、節水しながら生活しないとイケなくなっていました。

また、母は非常時のためにカセットコンロを準備して食事は作れると考えていたのですが、水が出ないと料理することは無理だと、この時痛感したそうです。

その日は体を洗うこともできず、トイレも流せないと思うと行くのもためらう、制限された生活になってしまいました。いつもは当たり前でできていたことが、水が出なくなっただけでできなくなってしまうのです。

一晩明けても停電と断水は続いていました。私達家族は、近くのショッピングセンターに水を買に行き、その際トイレを利用すると、何不自由なくトイレが使えました。普段は気にも留めなかつたけど、断水して、トイレが

使えること、蛇口をひねるだけで手を洗えることに感動しました。その日は入浴施設に行き、お風呂にも入りました。夜になってやっと電気が戻り、水も出るようになって、本当に嬉しかったことを今でも覚えています。

私は、この体験を機に水がどれだけ大切かはつきりと分かりました。そして、水道が整備されていない国や、災害にあつてライフラインが止まつてしまった地域などでは、私が停電中にやつていたようなことを毎日やつているのだからと考えました。二日間その生活をするだけでも苦労したのに、それが毎日続くと考えるだけで、とても辛い気持ちになります。おそらく、私が想像しているよりも相当苦しく、大変な生活を強いられるでしょう。断水して私は、水についてしっかりと考えるいい機会を得たと思います。

時々、蛇口から水が出っぱなしになっているのを皆さんも見かけることがあります。その蛇口の水を止めながら、私はいつも疑問に思うことがあります。

「なぜ、生きていくために必要な資源を大切にできないのだろうか。」

人が生きていくために欠かせないものである水を、どうして無駄遣いできるのか。水の大切さを理解しているのか。私達は一度立ち止まつて、蛇口をひねるだけで水が出ることのありがたみを考えなければなりません。

もし今、水がなくなつたらどうなると思いますか。おそらく、人は生きていけないでしょう。その水が蛇口をひねるだけで出るといふことは、決して当たり前なことではありません。私も今までは、しっかりと考えていませんでした。しかし、自分の身に起こつたことで、この恵まれた環境にもっと感謝しないとイケないと感じました。そして、その意識が世の中にもっと広がれば、水に対する見方が変わってくるのではないのでしょうか。